

ワンポイント 家庭菜園



キュウリの 育て方



キュウリはウリ科の野菜で、原産地はインドヒマラヤ山麓です。生育適温は、昼間23〜28℃、夜間10〜15℃で、pH 5.7〜7.0の砂壤土〜埴壤土を好みます。

(1) 定植の準備と定植

定植2週間前に、1㎡当たり苦土石灰120gを散布し、耕します。1週間前に1㎡当たり、たい肥3kg 化成肥料(8-8-8) 150g、過磷酸石灰60g程度施用し、土とよく混ぜて畝立てをします。

畝幅は200cm、株間60cmで2条植えとし、苗ポットに十分かん水し、根鉢を崩さないように植え付けます。接ぎ木部分が埋まらないように注意して下さい。植付け後はたっぷりかん水しましょう。倒れないように紐で苗と支柱を8の字結びし、ゆったり固定します。

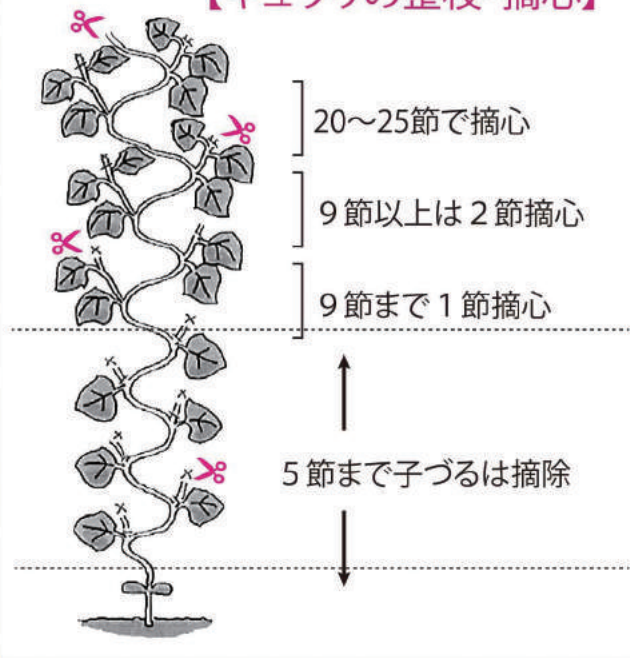
(2) 追肥

1回目は収穫始めに1㎡当たり化成肥料40g程度、株間または条間に、その後、7〜10日間隔に1㎡当たり40g程度、畝肩または畦間に施用します。

(3) 整枝

親づるの5節までの子づるは、早めに摘除し、9節までは1葉、それ以上は2葉で摘心します。孫づるは1葉で摘心します。(ただし草勢が強い場合は、子づるを摘心せず、1〜2本残します。) 親づるの果実は7節まで成らさず、親づるの摘心は20〜25節程度とし、子づるや孫づるの発生を促します。

【キュウリの整枝・摘心】



(4) 誘引

成長に合わせてネットに誘引をします。

(5) 下葉かき・摘果・かん水

茎葉が混雑し、採光・通気が悪くなると子づるの発生不良

や不良果が多くなるので草勢を見ながら随時下葉や上部の古葉を除去します。高温乾燥期のかん水は、3〜4日間隔で行います。

(6) 生理障害果

気候や風害などで果形の乱れ(曲がり果、先細果等)が発生した場合は、摘果して草勢の回復を図りましょう。

(7) 収穫

果実の重さ100g、長さ20cmを目標にします。鮮度を保つために、果温の低い早朝に行いましょう。

(文責 金沢農業大学校長 大蔵 捷直)

金沢農業大学は、新たな農業の担い手を育成するための研修機関で、野菜の栽培技術や経営に必要な知識を習得するため、講義や栽培実習などを中心とした研修を行っています。同校のご協力で「ワンポイント家庭菜園」の連載が決まりました。



講義中の大蔵校長